

石臼ときねで豪快にもちをつく参加者



石臼ときねでペタンペタン

中辺田見もちつき大会

若宮堰ふれあい広場(辺田見)で12月12日、中辺田見もちつき大会が行われ、地域住民約80人が参加しました。これは、年末の風習を若い世代に伝えることや地域の親睦を図ることを目的として、今年で11回目です。もち米50kgを蒸して、昔懐かしの石臼ときねでペタンペタンと音を立てながら、約1,000個のもちを作りました。つくたてのちは、中辺田見の家庭や福祉施設の約150世帯に配られました。馬場洋一郎区長は、「毎年、もちを配ると一人暮らしの人に大変好評です。これからも地域交流を深めていきます」と話していました。

御船REXがホームで躍動

ジュニアサッカー大会

大自然のピッチを舞台とした「ジュニアサッカー大会」が12月4日、吉無田高原「緑の村」で開催されました。これは、青少年の健全育成、健康増進や観光推進を目的としたもので、今大会で10回目。県内各地から30チームが出場して、小学1年から3年までの6パートで熱戦が繰り広げられました。御船町から唯一出場した「御船REX」(永野英二監督)は、ホームの大声援を背にしながら、1年Aパートが3位、2年Aパートが優勝、3年Aパートが優勝に輝いて、その圧倒的な強さと存在感を見せつけました。



3年Aパート準決勝のPK戦で、冷静にゴールを沈める御船REX

8年連続8回目の全国舞台へ

アイデアロボコン九州中学生大会

第12回創造アイデアロボットコンテスト九州地区中学生大会が12月11、12日の両日、沖縄県沖縄市で開催され、県代表の御船中学校(加藤敬之校長、496人)が2部門で優勝するなど上位を占め、8年連続8回目の全国大会の切符を手にしました。大会には、九州・沖縄8県から4部門に約120チームが出場。競技は、▽ごみを回収するお掃除ロボットでタイムを競う授業内部門▽板に置いた3種類のボールを回収して所定の場所へ運び得点を競う応用部門▽ボールの入った不安定なカップを移動して積み重ねた個数を競う九州オリジナル部門などを、予選リーグとトーナメント方式で対戦しました。その結果、授業内部門で「新生御船」と、応用部門で「以心伝心2nd」がトーナメント戦を制し優勝に輝いたほか、応用部門で「OTR」が審査員特別賞を獲得して、御船中3チームが全国大会出場を決めました。3年で部長の野口圭くん(滝川)は、「全国大会では、ロボコン大賞を取って御船町に持ち帰ります」と意気込みを話していました。全国大会は、1月22、23日の両日に東京都銀座中学校で開催されます。なお、九州大会の結果は次のとおりです(順不同敬称略)。

【授業内部門】

▽新生御船(県大会優勝、九州大会優勝)
瀧上斗誠、矢壁孝志、真田瑞生、樋口勝哉、三角拓人

全国大会出場を決めた御船中技術・ものづくり部



【応用部門】

▽以心伝心2nd(県大会優勝、九州大会優勝)
岩上佳史、高添進也、森友規、野口圭、村上大周
▽OTR(県大会ベスト4、九州大会審査員特別賞)
江本健留、藤田朗史、奥村菜理、吉住亜里紗、内村勇志

【九州オリジナル部門】

▽御船RC(県大会優勝、九州大会準優勝)
鎌田康介、田中稔久、道添文彦、佐藤一志、森田裕之

トップと36秒差の2位で力走

上益城郡町対抗駅伝大会

第35回上益城郡町対抗駅伝大会が12月19日、嘉島～山都の8区間34.05kmで行われ、御船町は2位に輝きました。1区・米納美菜子選手(辺田見)と3区・上口結衣選手(陣)、7区・大場祐哉選手(豊秋)が区間賞の走りを見せるなど、安定したレース運びでタスキをつなぎました。なお、結果は次のとおりです(敬称略)。

▼総合(町名・総合タイム)

①山都A 1時間53分23秒 ②御船 1時間53分59秒
③甲佐A ④益城A ⑤嘉島 ⑥益城B ⑦甲佐B ⑧山都B

▼個人(区間・氏名・総合順位・区間順位)

▽1区・米納美菜子① 2区・高田凜太郎③④
▽3区・上口結衣①① 4区・増田晃大②④
▽5区・山下直樹①② 6区・高橋満③④
▽7区・大場祐哉③① 8区・松永匡史②②



4区・塔ノ木～上益城地域振興局前の7kmを2位でタスキリレーする増田晃大選手(木倉)

38年ぶりに音楽活動を再会

アントニオバンドで演奏活動



甲佐町保健福祉センターで開かれたクリスマス会でバンド演奏を披露するアントニオバンドの甲斐弘さん(右2番目)

上益城郡内や熊本市を中心に、フォークソング、ポップスや歌謡曲などの幅広いジャンル演奏で、施設の祭りやイベントで親しまれているのが「アントニオバンド」です。このバンドで、ボーカルとボンゴを担当しているのが、甲斐弘さん(滝川)で、38年ぶりに音楽活動を再開しました。甲斐さんは、15歳から音楽を始めますが、20歳の就職を機に、大好きなバンド活動から遠ざかっていました。歳月だけが過ぎる中、10年ほど前に視覚障害を患った甲斐さんが、音楽と再会したのは昨年7月。障害者の生活や活動をサポートする「地域活動支援センター アントニオ」(益城町)のバンドを見学したことがきっかけでした。今では、バンドの中心を担う甲斐さんは、「生活のほとんどが音楽で、人に喜んで聞いてもらえることが楽しい」と話します。